

国見町赤十字奉仕団

国見町赤十字奉仕団					
2012年度	実施日	参加人数	内容	全県	参加人数
1	4月4日(水)	8人	炊出し活動	国見町 上野公民館	15人
2	4月17日(水)	9人	炊出し活動	国見町 飯館公民館	14人
3	4月29日(水)	8人	炊出し活動	国見町 飯館公民館	20人
4	5月10日(水)	8人	炊出し活動	国見町 飯館公民館	17人
5	6月9日(水)	7人	炊出し活動	国見町 上野公民館	18人
6	6月21日(水)	8人	炊出し活動	国見町 飯館公民館	20人
7	6月29日(水)	12人	炊出し活動	国見町 飯館公民館	18人
8	7月6日(水)	7人	炊出し活動	国見町 飯館公民館	11人
9	7月17日(水)	9人	炊出し活動	国見町 飯館公民館	12人
10	8月6日(水)	9人	炊出し活動	国見町 飯館公民館	13人
11	8月23日(水)	9人	炊出し活動	国見町 飯館公民館	14人
12	10月1日(水)	7人	炊出し活動	国見町 上野公民館	13人
13	10月15日(水)	8人	炊出し活動	国見町 飯館公民館	14人
14	11月1日(水)	7人	炊出し活動	国見町 上野公民館	10人
15	11月15日(水)	8人	炊出し活動	国見町 飯館公民館	11人
16	11月29日(水)	7人	炊出し活動	国見町 上野公民館	8人
17	12月1日(水)	9人	炊出し活動	国見町 飯館公民館	7人
18	1月16日(水)	7人	炊出し活動	国見町 上野公民館	9人
19	1月22日(水)	7人	炊出し活動	国見町 飯館公民館	10人
20	1月29日(水)	11人	炊出し活動	国見町 飯館公民館	12人
21	2月6日(水)	8人	炊出し活動	国見町 上野公民館	12人
22	2月13日(水)	8人	炊出し活動	伊達市 飯館公民館	20人
23	2月20日(水)	8人	炊出し活動	国見町 飯館公民館	7人
24	3月6日(水)	8人	炊出し活動	国見町 上野公民館	12人
25	3月13日(水)	8人	炊出し活動	国見町 飯館公民館	7人

活動の実績はこちら



★いつから活動されていますか？

- 震災の当日より49日間炊出しを実施した(国見町民の皆さんを対象)。国見町は家が全壊の方が多かったため、すぐ仮設住宅に入居された。
- 仮設住宅が完成した際、飯館村の村民の皆さんも入居した。

★対象はどちらの地域の方ですか？

- 当時 49 日間の支援活動は、原子力災害被災者に対する支援ではなく、国見町民の皆さんに対する炊出し活動。
- 仮設住宅が完成してからは、飯館村が全村避難になり、国見町民と飯館村村民の皆さんを対象に支援活動を開始。

★どんな活動をされていますか？

- 主に吊るし雛作り。委員長が民生委員だった時に作ったもの。赤十字奉仕団委員長になってからも、作る会として活動していたので、震災後も避難者の方に楽しみながら長く続けられたのだと思う。他にもちまき、ちらし寿司なども作った。
- 2ヶ所を月2回訪問、3年以上続けている。
- 花植えなどでは、男性の会員もいるので重い作業もやりやすい。



★活動を始める際、どこでだれと協議しましたか(どなたの発案ですか？)

- 震災時はひどい状況であり、町役場が震災で半壊し、文化センターに移転した。避難所も文化センターになったため、役場の職員もいて、炊出しなどは流れよくできた。
- 国見町の赤十字奉仕団は、町内会長連絡協議会、議会、交通安全協会母の会、消防、商工会女性部、その他町の主な組織の長から構成されており、町全体が赤十字奉仕団という形になっている。
- 民生委員が関わった、婦人会が関わったなどではなく、奉仕団みんなでやった方が誰でも参加できると思った。各組織がばらばらに活動するのではなく、奉仕団という形で活動できたため、長く続けられたと思っている。大震災時の町長からの炊き出し依頼も、奉仕団委員長を通し一元的に行うことができ、良かったと思っている。
- 仮設住宅への支援は、民生委員で対応する話だったが、日赤としてどう関わっていくか検討し、吊るし雛で元気をつけようと思った。
- 社協を通して活動を開始。もともと社協がボランティアの会を作っていた。それぞれが奉仕をしようと頑張っている。
- 活動には社協も毎回来てくれる(仮設住宅担当の職員)。社協を通さないと支援ができないようになっている。

「できあがったつるし雛」



★被災された方々の声はどうでしたか？

- 家にはネズミがいっぱいで住めない、村に戻ったら一人になってしまう、息子たちも帰ってこない。
- 吊るし雛作成に参加し、奉仕団員が一から十まで作成している隣で、何もせずとにかく話しをされる方もいた。出来上がると自分が作った物のように喜び、毎回参加してくれる方もいる。それでも顔を出してくれるので嬉しかった。

★大変だったこと・困ったこと等ありましたらお聞かせ下さい

- 急に来てもらいたくないといわれたこともあった。
- 仮設住宅の活動自体は社協が段取りしてくれたので大変活動しやすかったのも、大変だったことはない。



★支援活動前に知っていれば良かったことは何かありますか？

- 民生委員、婦人会、奉仕団間の情報共有も出来ていたので特にない。(社協が情報をとりまとめた。)

★今後の支援活動において何か新しい取組み等がありましたらお聞かせ下さい

- こころの負担にならないように茶話会など、男女問わず実施したい。
- 各ボランティア団体を社協が管理しているので、ニーズに合わせて団体をコーディネートしているため、各団体の得意としているものを支援活動に繋げている。(他団体にはコーラスなどを行っているのがある)。
- ボランティアしたい団体が他にも沢山あるので、無理しなくてよい。

★支援者(奉仕団や他団体)の「こころのケア」の必要性を感じますか？

- 自分達の得意である分野で活動しているので特に感じていない。
- 活動自体みんなで集まってやれる事が嬉しい。吊るし雛は震災後からやっているわけではなく、震災前からやっている取り組みなので、他から支援があろうがなかろうが支援は継続する。
- 信頼できる仲間の中心にいつも委員長がいる。全ての活動の責任者を奉仕団委員長に一任したことが良かったと思う。